

# bwbasic の使い方

## 1 bwbasic とは

1960 年代中ごろまでは、コンピューターは非常に高価なもので、大企業あるいは大きな大学の計算機センターで特別に雇った職員が操作するものでした。プログラムの入力も、例えばパンチカード（皆さんは見たこともないと思うが、小さな穴のあいた何百枚ものカード）を計算機センターに持ち込んで機械に読み込ませていました。しかもコンピューターの能力が低かったので、一度に一つのプログラムしか走らせることができませんでした。ところが 1960 年代中ごろ以降、コンピューターの能力が急速に向上して、タイムシェアリング技術が発達すると、不特定多数の人間が同時に一つにコンピューターを利用できるようになり、もっと簡単なプログラムの入力方法が求められるようになりました。そのような需要から生まれたプログラム入力方式の一つが BASIC です。BASIC とは Beginner's All-purpose Symbolic Code の略語で、J.Kemeny と T.Kurtz の指揮の下 1964 年 5 月 1 日にダートマス大学で立ち上げられました。その後様々な BASIC が開発されて、bwbasic はその一つです。それぞれの BASIC で微妙に記号の意味が異なるから（つまり色々な方言があるから）これから学ぶ bwbasic の記号類がどの BASIC でも同じというわけではありません。しかし基本的な文法は共通しているから、bwbasic をきちんと理解しておけば、他の BASIC も容易に使えるようになります。

## 2 bwbasic の動かし方

- 1) TeraTerm により UNIX に入る。
- 2) ここまでの作業により、ホームディレクトリに bwbasic-work というディレクトリがあって、その中に bwbasic がインストールされているはずである。まずそのことを確認する。
- 3) ディレクトリ bwbasic-work に移動する。
- 4) ./bwbasic Enter としてディスプレイに

Bywater BASIC Interpreter/Shell, version 2.40  
Copyright (c) 1993, Ted A. Campbell  
Copyright (c) 1995-1997, Jon B. Volkoff

bwBASIC:

と表示されたら, bwbasic は正常にインストールされている. 上の状態で `system` `[Enter]` (または `quit` `[Enter]`) により bwbasic を終了してもとの UNIX の世界にもどることができる.

まとめると `./bwbasic` `[Enter]` により bwbasic が起動し, `system` `[Enter]` (または `quit` `[Enter]`) により bwbasic を終了する.

### 3 bwbasic でプログラムを走らせること

- 1) TeraTerm を用いて UNIX に入る.
- 2) ディレクトリ `bwbasic-work` に移動する.
- 3) emacs を用いて `hi.bas` というファイル名で

```
10 print " Hi, world"  
20 end
```

と書いて保存する.

- 4) `./bwbasic hi.bas` `[Enter]` と打つと, ディスプレーに

```
Bywater BASIC Interpreter/Shell, version 2.40  
Copyright (c) 1993, Ted A. Campbell  
Copyright (c) 1995-1997, Jon B. Volkoff
```

```
Hi, world  
bwBASIC:
```

と表示される (ハズ).

- 5) ここで `hi.bas` がプログラムで, それを bwbasic により走らせたわけである.

6) まとめると

- プルグラムのファイル名は拡張子が `.bas` でなければならない.
- `./bwbasic` プログラムファイル `Enter` によりプログラムを走らせる.